Gôkan:(No. 054)
Kana Hogo Ikkyû.
Book 1--15.

假名反古
一休咄

嘉永子歳
初春彫成

柳下亭種員作
一雄齋國貞画

甘泉堂
壽梓

へ 13
3738
1

假名反古一休草紙

初編上

門 ヘ13
3738
1

かなぞうし 一休さま

初編 上冊

雅員作

国輝画

世につくきさてくるまひく人乃
手うるとつまびくうふせ伐今偕八父を
ひ比きこらくと茶安の印お未生未多
あハ毎とありもくふるうまを冊ふの頒白
にようもをもくく偕にしくげんろく

甘泉春粋

假名反古一休草紙 第初集

面壁坐禪の床のあらねど書卓に向て息一息案を凝せる真中へ来訪
の誰休師ろ菴室薪卿ふ因ある芝の書肆甘泉堂の主人なり彼老和
尚が生涯の活機風狂を稗史ふ編と需ふ禅師を庸人ならぬ後
松の一葉とや當時の人も誦ドけん実ふ尊き金子玉葉さる祇愚
作ふのせんふ最忝き業なから世活を鳴呼何為と序を書果く
筆架ふ投る毫の音もから〳〵唱

嘉永壬子暮天　柳下亭種員識

東都芝神明前　甘泉堂　和泉屋市兵衛製本

浪士
船田弥源治が女
露草

俳諧細少石　寛文八年印本
梅盛撰

二星影やたらひの
まるる中　因元

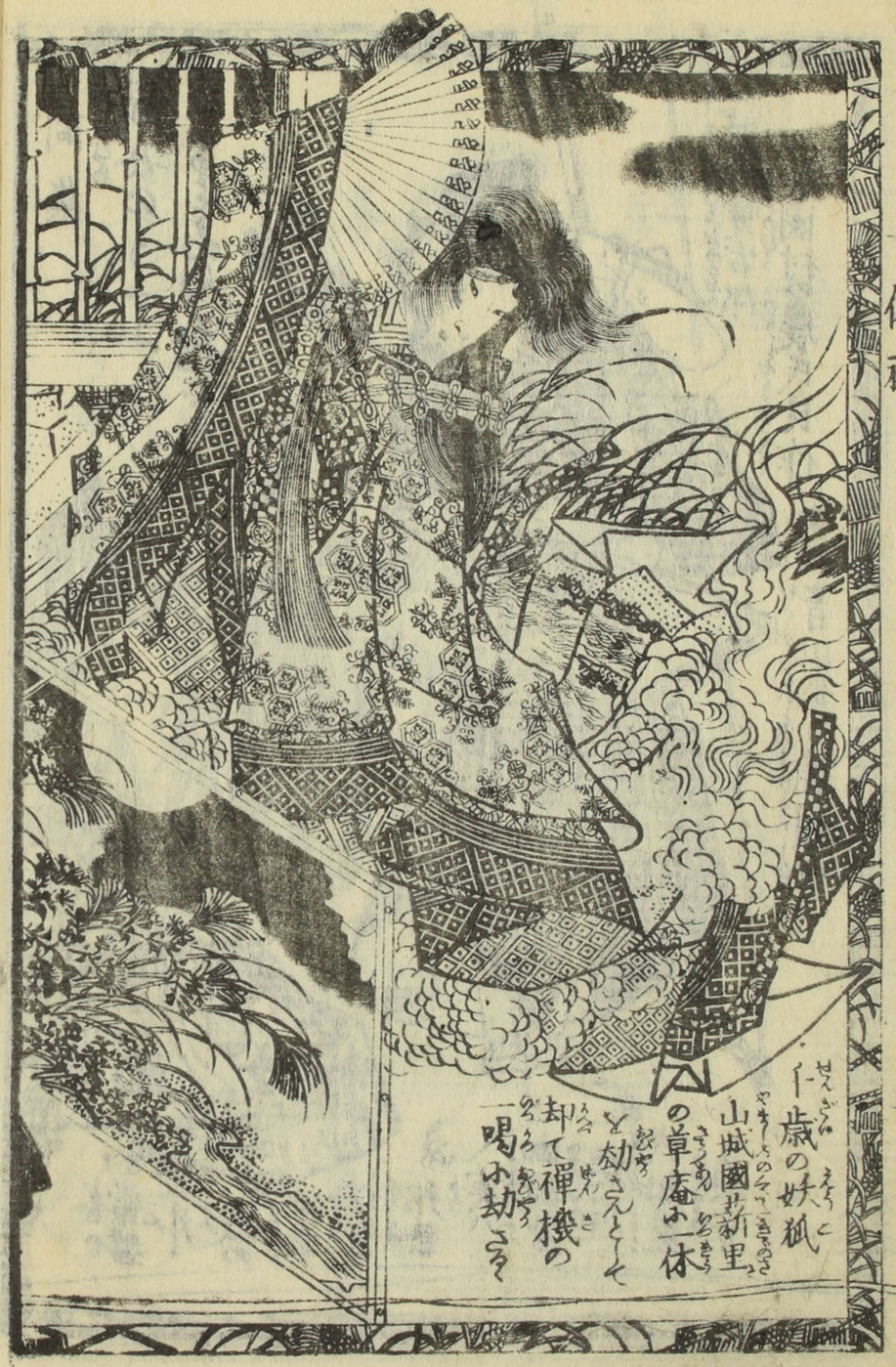
同集

織女のくふ
よこ糸の花ごろも
弘長

山城國愛宕郡
花園村の農民良作
実ハ吉川隼人佐頼重

常盤の井の殿の雑掌
速見ノ邦兼
実ハ御隨身
蜷川
式部丞
貞正

一休禅師



千歳の妖狐
山城國岩鼻里
の草庵に一休
を劫さんとて
却て禅機の
一喝に劫さる

各北山石倉花園村ゟ住浮浪
船田弥源治
実ハ南朝の
忠臣
和田和泉守
正武の
舎弟
今
弾正
正澄

俳諧伊勢踊 寛文七年印本
加友撰
かゝる祭りや女まで
星月夜 秋 湖春

良作が妻
於幸実ハ
立日川
頼重の
内室
香晒

同集

普天の星ぬきとる
ようやそうその内 恭庵

人皇百一代の帝王
後小松院

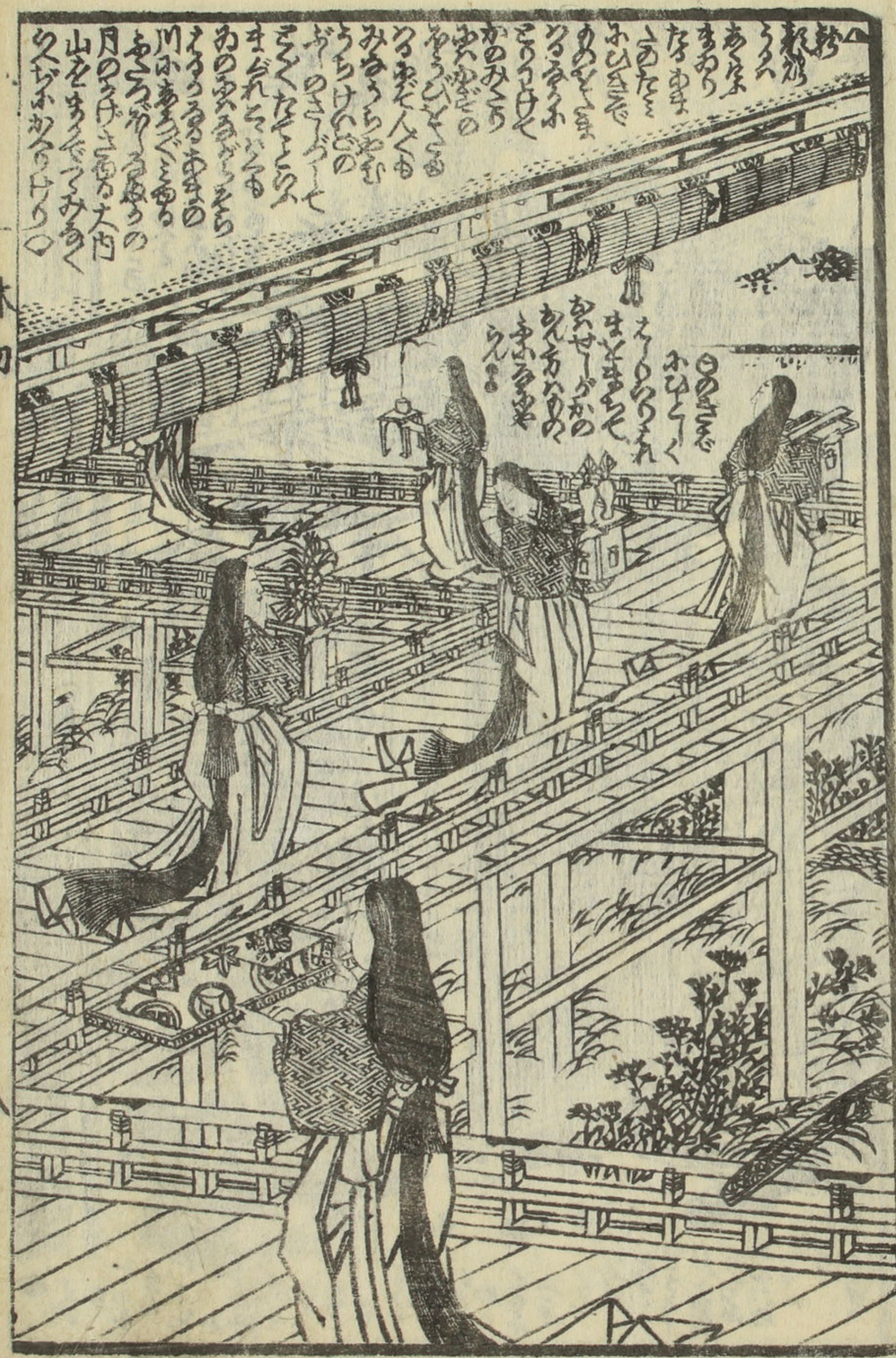
ようこそんでめ　今皇
統九十九代のみかど
後醍醐天皇
ほんの仮内裏
ぢんじ新田義
貞打神楽ヶ岳
軍勢よろこびをうたふ

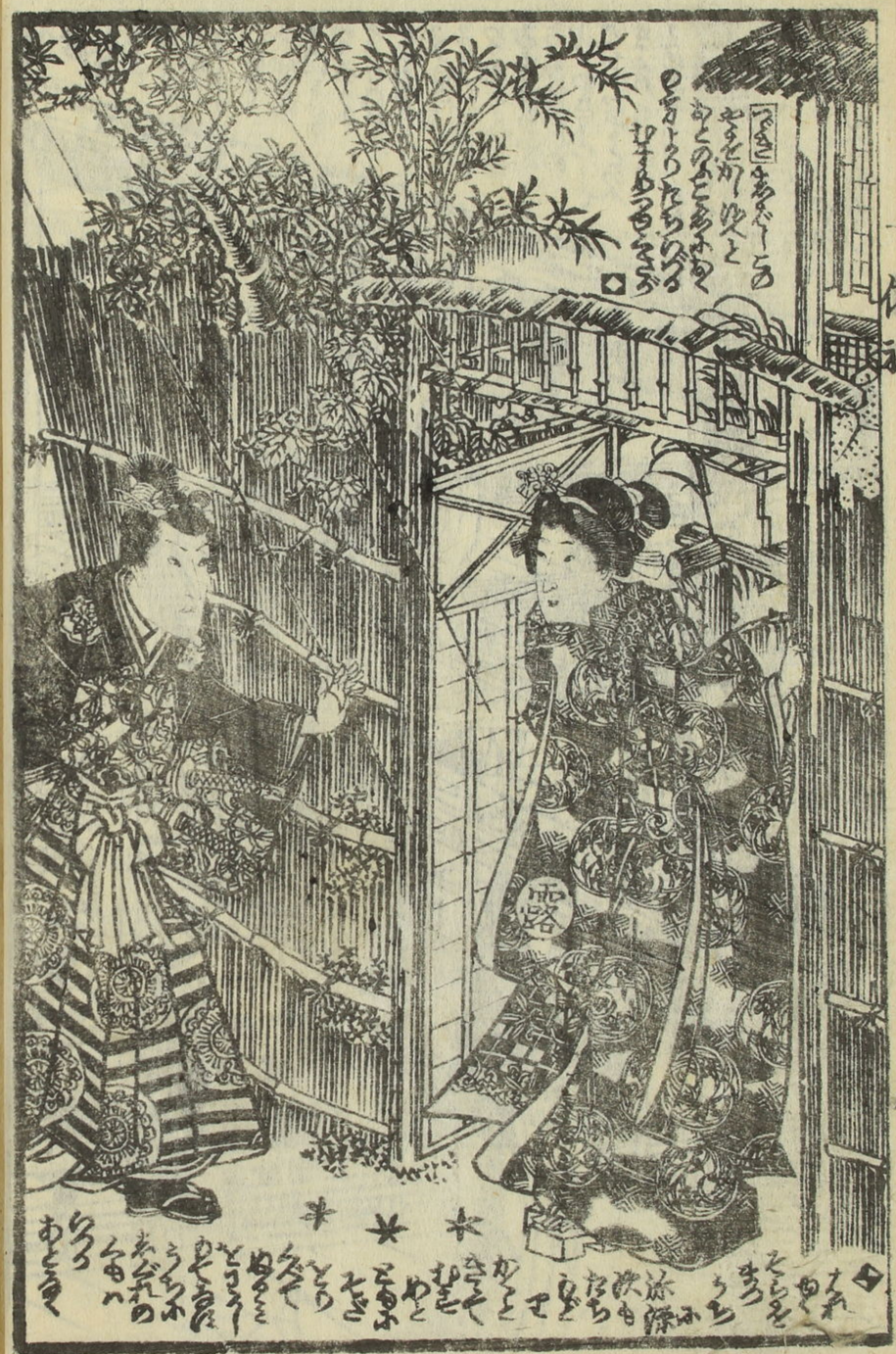
あゝうれしやな此時の軍功抜群なる
ぎょうの方々どうぞさんざめきをも心つらね
我が御門のみちをひらくこのまゝ世中も
とあそうろうことだのとさゝやき堂上
うたふ武
家はいかゞもこのみちかゐをよまうりのあれが当日人内
りうとくあるさればんゝかゝるそーらくらんあるべ
かゞてかちうらくれさをゐんのことを
さてゝやうふところ民どのはなものかくふ
うことをあてゝめろうさてゝこれ
さんやとこゝろくものごうん
ふんあるはそのごとくまろ
かごうくころまてゝ
内裏ばいまれ
よそけへんのうふ
ゐらどうぞ
たまうんこそ
ぎこれをもつて
まろうえのうち
ぢんじ
ゐらどうぞ
たまうんこそ
ぎこれをもつて
まろうえのうち
ぢんじ

つぎへ

一寸八分

後小松院




西路

常

かのさくらが
あらくらもの
ものかげのうち
ひとをさげ
おのづからしの
なげけしの
こさらまつり
きかもえ

加茂の御幸ゐ
弥源治後小
松帝と試認奉る
此両ノ次の本文ぞ
あのづから解る

たのもしきかなやまとだましひのおのづからなるいさをしさ
弥源次もいぶかりくる日かのものゝ
ゐふしそやうくもたゞあるやうにて
ものこまるふやうかゝるときそんのせいあるも
とせめよろうかゝれ名をあらせ
とあるこゝろをしらぬからぬ
るやくこえなるくらこ
まふうちゐさきこる
ぶのハクひてようつも
くそぶひるまれ
るすぐこ
かゞそく
ありひを
るやまり
人もるき
まりくうち
ひかしよる
ゑんがひるも
まるこ

安政四丁巳春發行
日錄記

女郎花五色石臺 八編 新下谷種員作
新編金瓶梅 九編 一筆齋國盛画

曲亭馬琴作
一陽齋豊國画

黄金水大盃 五編 六編 出板 為永春水作 歌川國貞画

一猛齋芳虎画
三十六歌撰詠色双六 極彩色 小本一冊
きほひたるその枚つきこそ極上の
そのけしきおのうたれば初学の
ひろきさとふも極上ふりだし

小倉百人一首姫文庫 極彩色 小本一冊

古今俳人百撰 芙蓉本 荒木田守武 山崎宗鑑 松永貞徳 安原貞室 他 十冊

芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛板

種員
國輝

種員作
國輝画

甘泉堂
梓

初編下

一休草紙

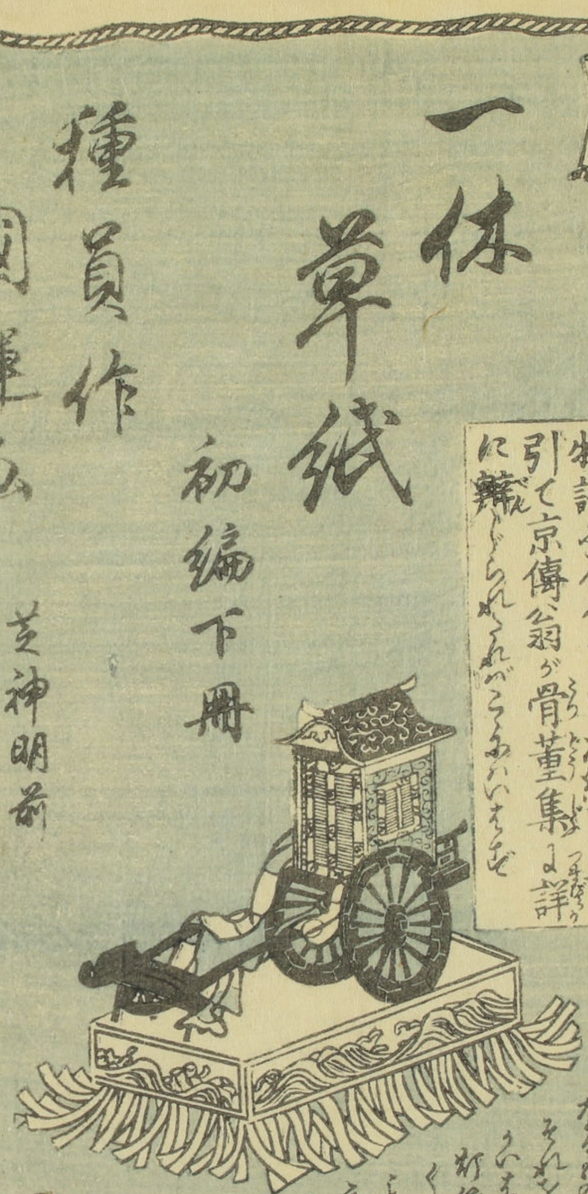
初編下冊

種員作

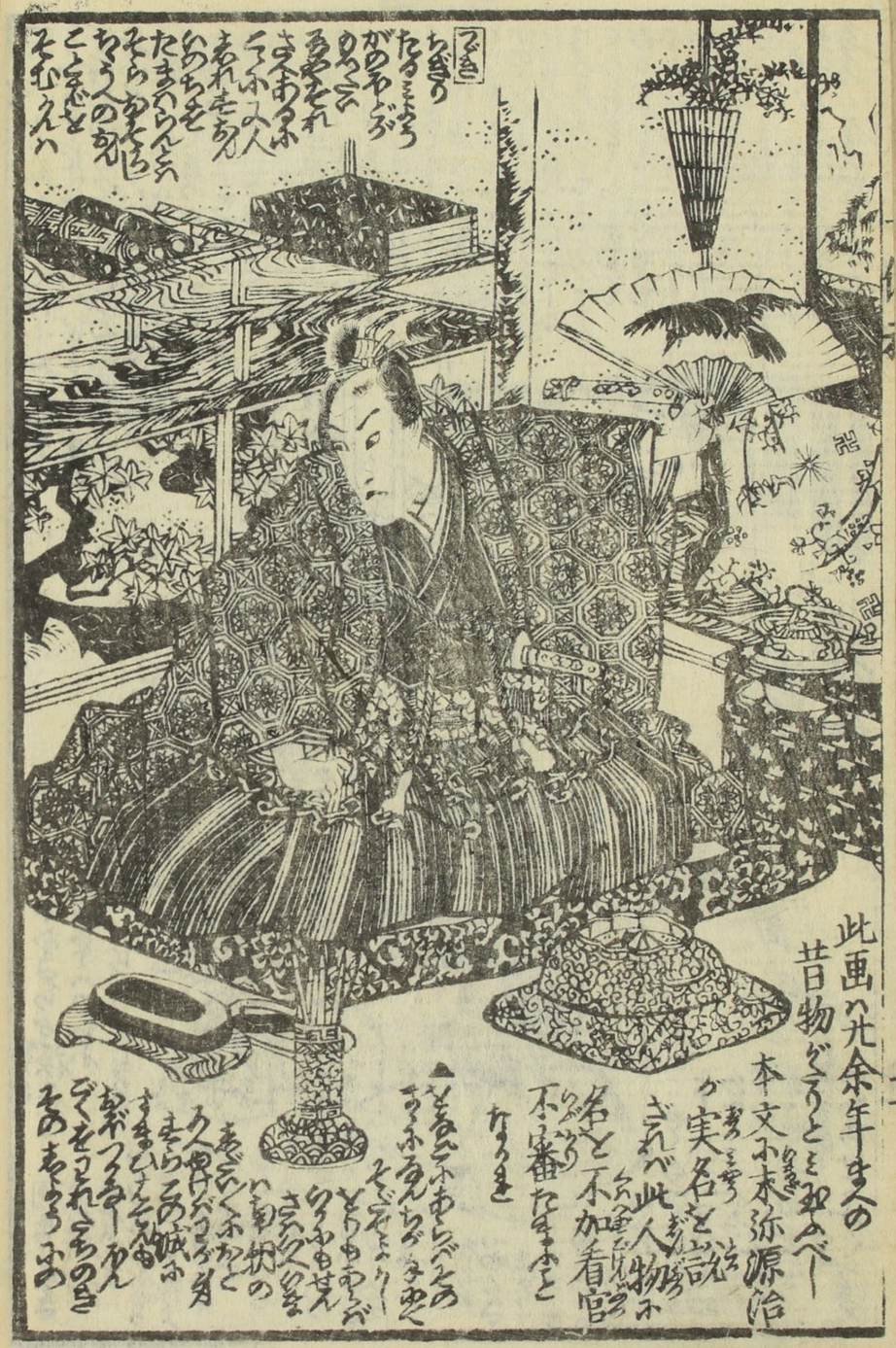
國輝画

芝神明前

和泉屋市兵衛板



燈籠暗し浴北岩倉花壇巴あり延宝二年印本山城國四季物語ふんえつう日次紀事等を引て京傳公羽が骨董集に詳



つづき

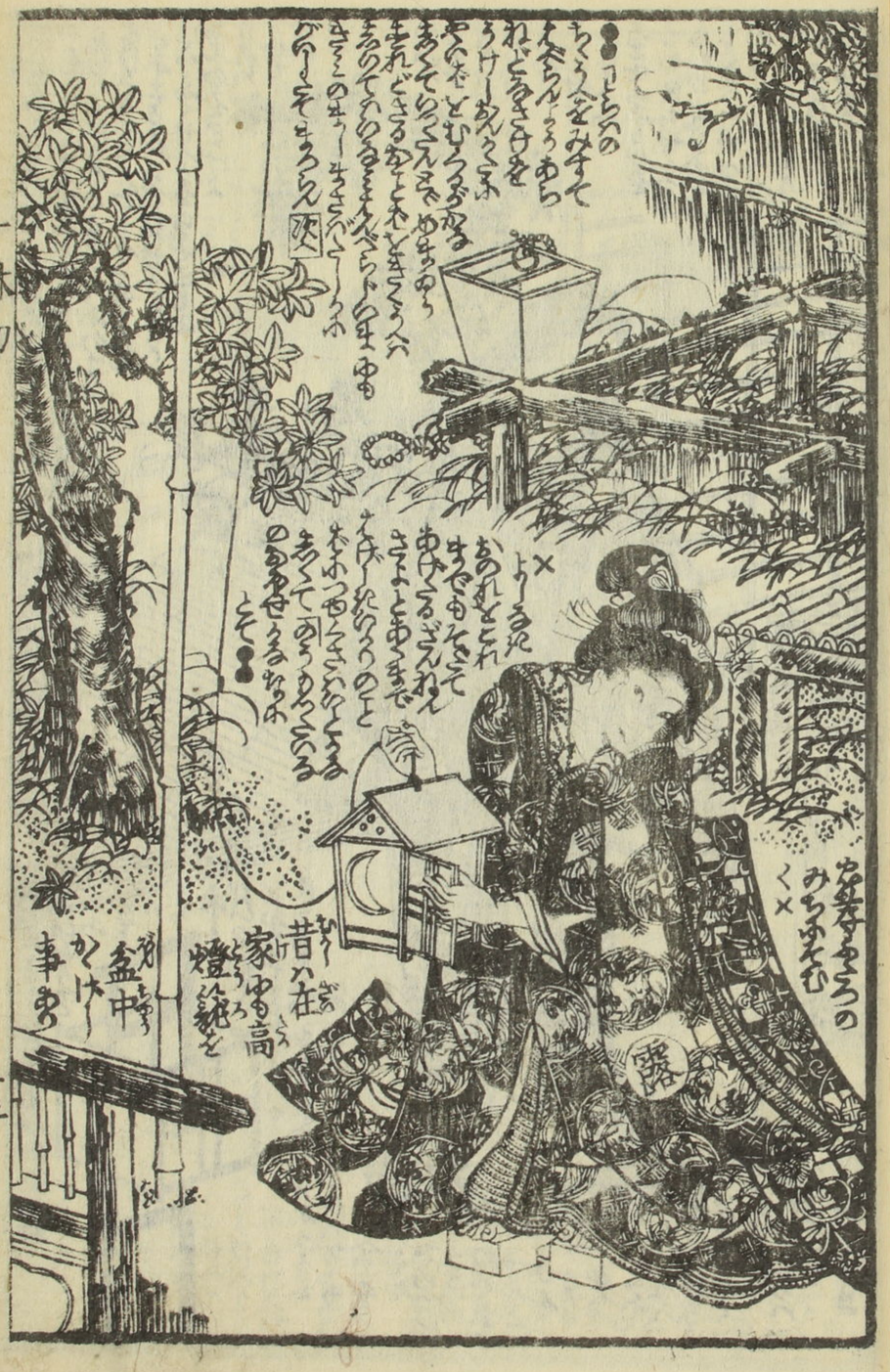
此画ハ光余年まへの昔物ぐさとおもへべ

本文ハ未詳源治が実名を註ざれべ此人物ハ名と不加看官の不審なまことなるまじ

白拍子藤浪

うまれやうちのちそだてもしき
世の人をてにおきむりやうをあさめ
しの末生敷

◆ゑぶみたちつろ
そーちがこそも
廿のあ〜くこまれ
えてるとこりる心
一百あ〻ゑ〻のこ
ごまのろっも
つこーそこきょう
ゑせーづえのちち
さらふをこづれ
こくせとへてん
さのふうまはせー
のかまさるのら
おれのまさら
りんえのそり
くるえがさーら
まんえりゆるか
さぎあ相山ぢんの
ぢゃうろうのこうえら
つぎさうこんぶえちどのの
やーちひこそこぐらも
のえまもこの世わ中あへ
えるごゑもせよかの
あちふをうえち
のごとくえぢそ
るべやそうう
コろがふめ
たをくる
えせん



ちうろうをみそえんちうろうあらいどろきそをうけーんくふとむろぶるまくそのくんそをめまのまれどさるおとれをきそうへまのてのるまんべらとのまーまさべーろふのーそちろん次

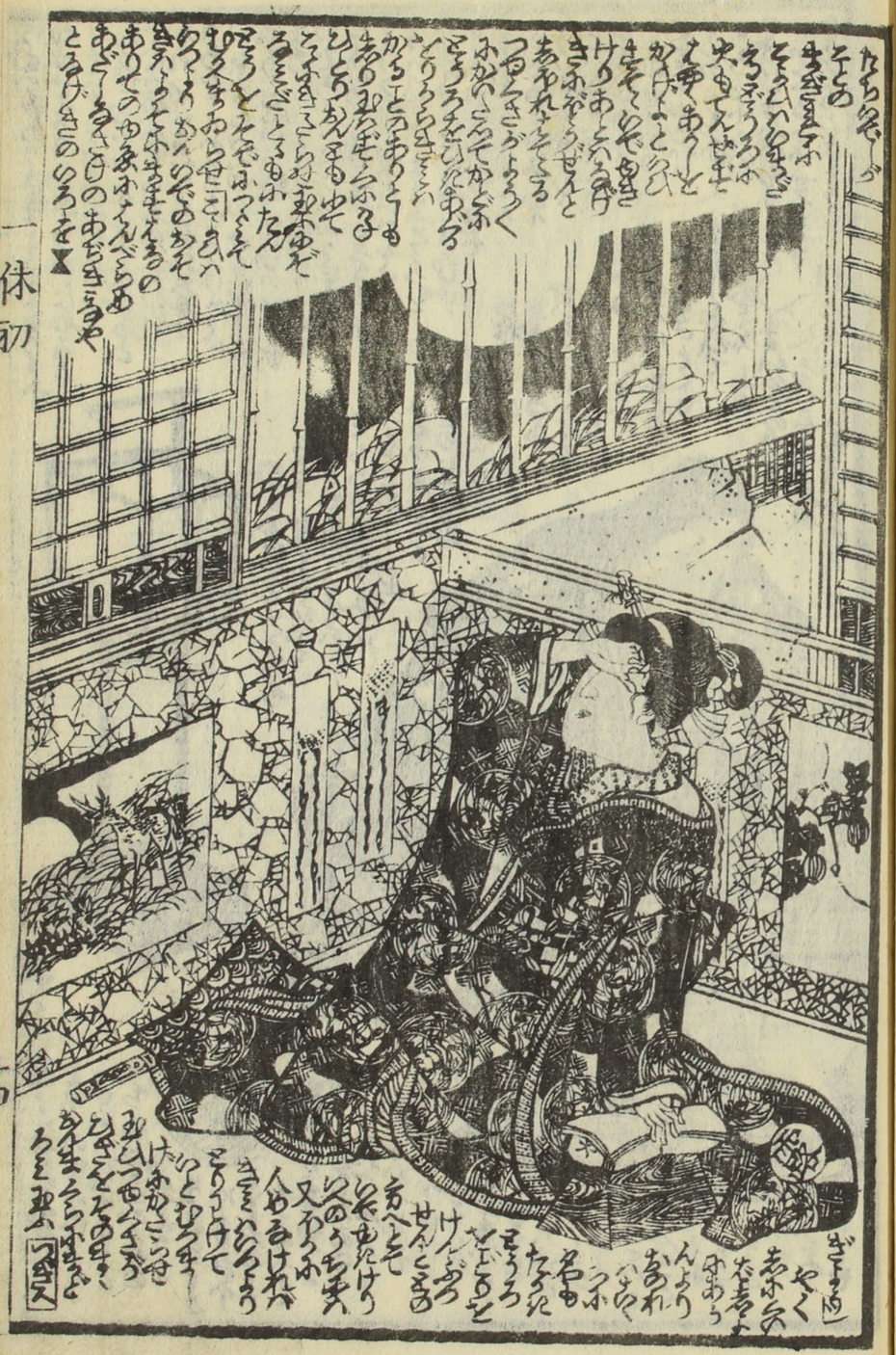
×ようろんおのれをこれまでもそえんちべくるざんれんさよとゆまをえんーんのるおつもてくてのうろくのるやうんたをくる

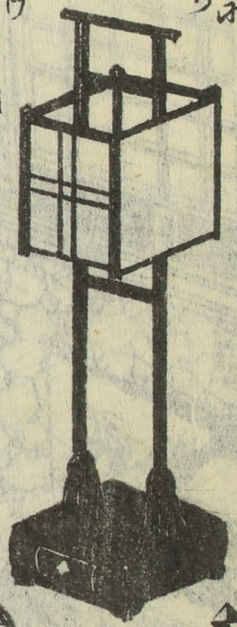
昔か在家中も高燈籠を

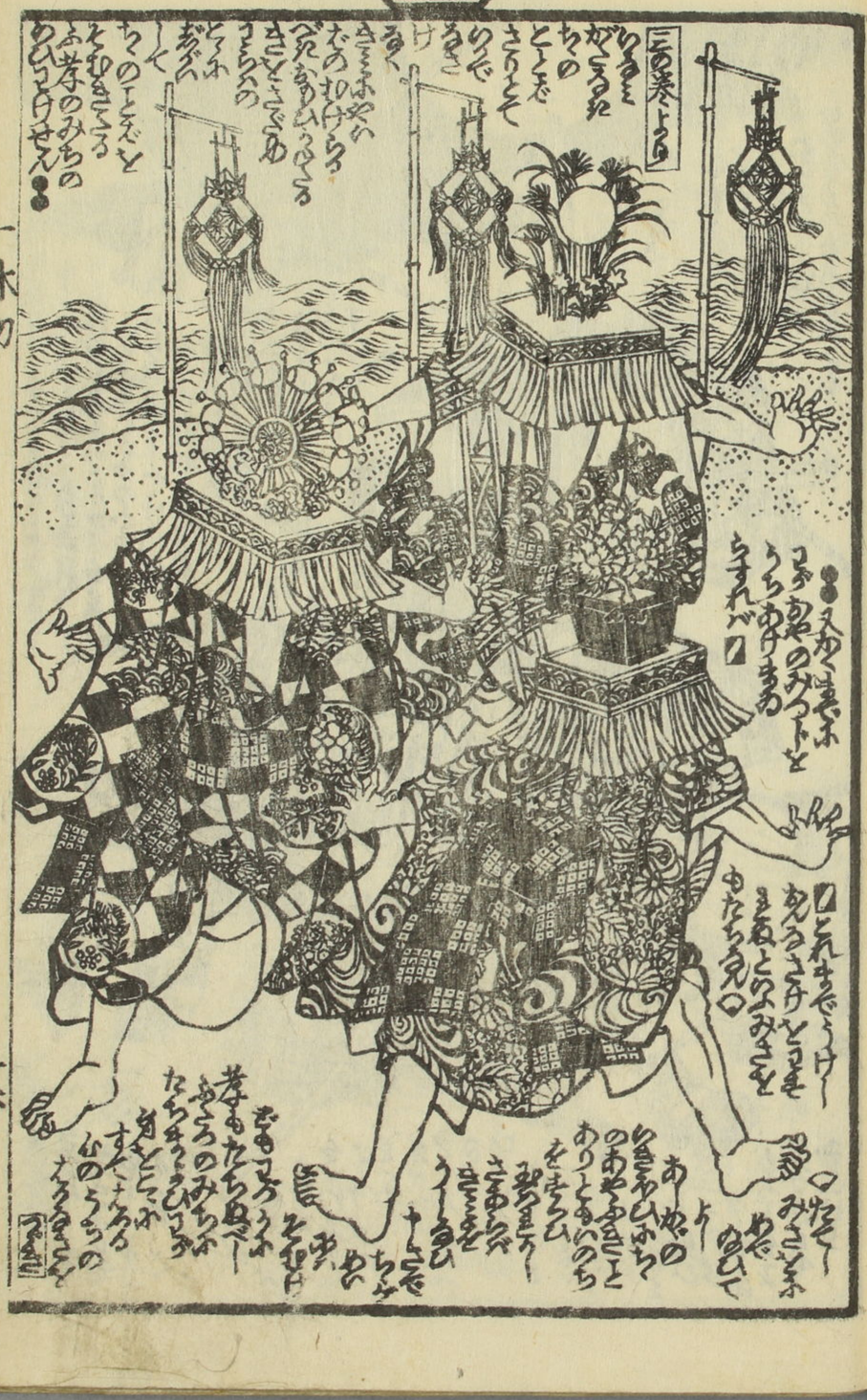
露

盆中かけ事あり

常

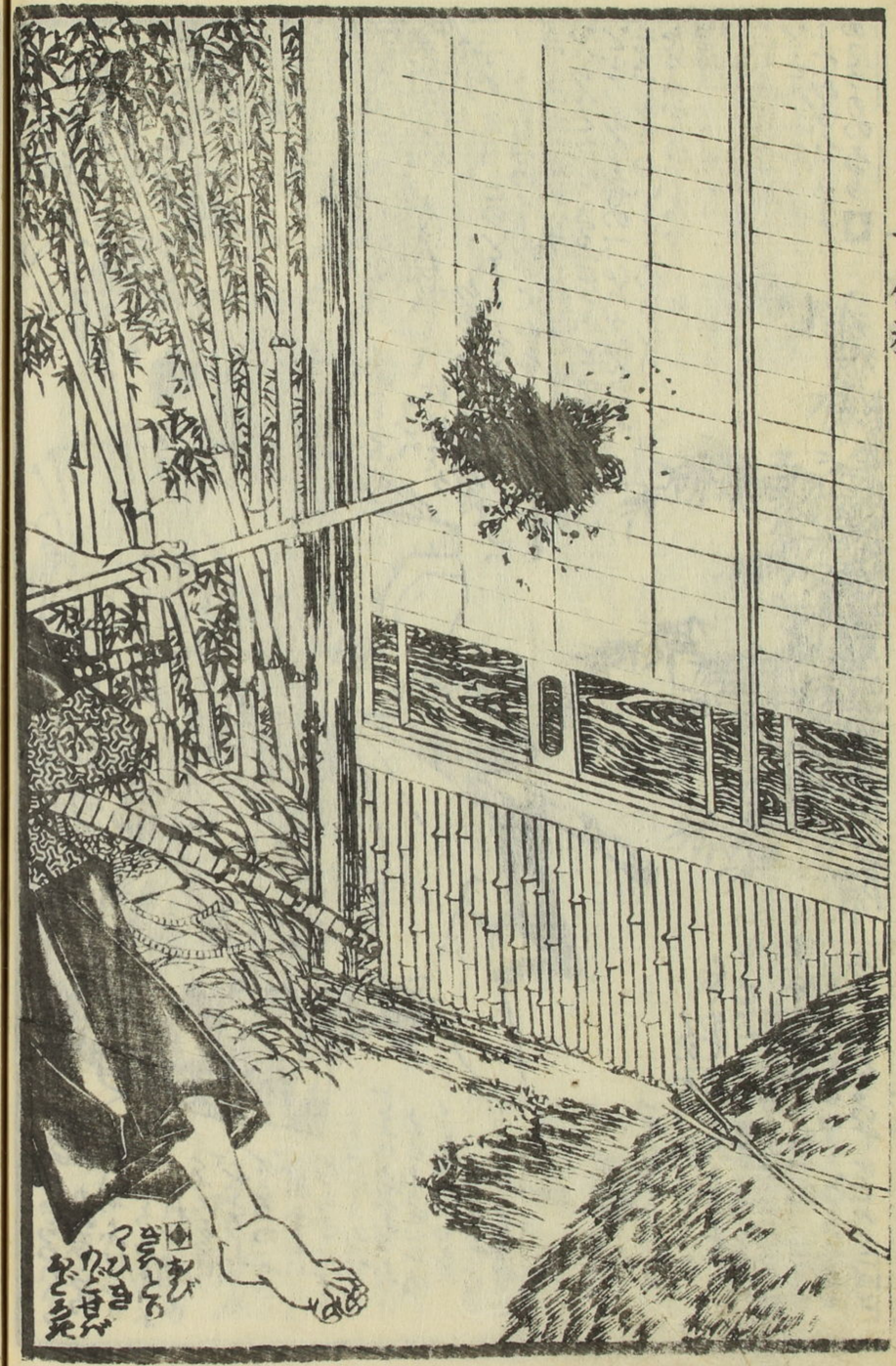






良

弥



[ト]人々びこそ
まさしくみうとと
おぼしめしそれと
あらば追ッつゞそ
おようびでーたび
ひとうきとうらぬ
けびなろとたゝさる
ちけぶりとそもお
むきる女のこうれ
こんとうえんとそ
まゝおもふまうに[ト]ひき
あけそれすべ
みうどの法服

「マアくまつてと
そゞむちくまあひの
おこちもまうびあり
ゆくむとうこゐゐが
男とやろうもこまれ
うれりあれりくきも
せきたちさそれりす
ものゆうくおちくのだへ
トおうくをおからーめく
まおうくをさうすうろん

[ト]こびさてる
おんぎうの一ト矢
弥源次ながさうぐ
おえちーとんあて
やのぐからうと
うちおとせが
人く
これいと
あつろうき
つみるる
ひこまふ
こゑあうて
菊次のお
呂和田梨枕
お正氏ざ
おうさのかく
おこてなる
おく係氏
ふく正
澄

男ふまとひかき
さえのそまがこえく人
あけおそさるをそちが
ありさまおとおろうた
ゆけきてるつゆくさん
くとここそのうかう
やとゆあひまさうつき
るけんひすあめゆも
うけむふ添けいきさろう
きのさしくかわんや
とをあそんせー
うのうこふおのび
すーまもとも
やうみうどを
のうむへ兄とあく
そあうけそ
やうんとまる
なくーもおうぎ
あひる良作
「のうでやうーとさの
かうるをてろえそうと
うけるーひうりと
あうこうゆのおもあたを
えろうてさりむすぶのとも
えけーきたぐひのこちぜそも
ふきさんらの月ゆけきうめき
つゆてるうぎのひろうこるおあうく
つゆてされそのまくなうをあーごそ

ゆくさもゆーゆうぐせよ
ろうくるやのぐおうおぐ
つゆくさこの男をこーと
そのおうくうこくのぐ
んるゆうけてあられとう
のつてゆうのおうさまゆ
ゆゆなおおとうちおうも
つるぎのひうりそれろ
しあうくおうの方
より

みその川
まをさぶの
さぐまうさ
たいめんせん
とうぐおうて
かーとをの名
えやくふうの
弥源次なう
とのぞ[ト]みそ
ちくうこれ
たうりのうらもとおも
ひーやふふ一よさこの
さみんをうくてひ
うらさらせんる
えちうるひぐおんの
たぐひえやくもかーにを
のうれきてみうどを[つきん]

みその川
ゆ初の水隠えばる
けるうこれもうくよう
たうりのうらもとおも
ひーやふふ一よさこの
さみんをうくてひ
うらさらせんる
えちうるひぐおんの
たぐひえやくもかーにを
のうれきてみうどを[つきん]

柳煙亭種久作
一壽齋國貞畫

忠臣貞婦いろは文庫

初編 附録一冊
二編 出板別段
三編

柳下亭種員校合
一陽齋豊國助筆
梅素亭玄魚補

仮名反古一休草紙	九編 十編 十一編	柳下亭種員作 一壽齋國貞画	
小女郎蜘蛛の糸巻	三編	曲亭馬琴作 一勇齋國芳画	
照天松操月鹿毛	五編 六編	春風亭柳枝作 一雄齋國輝画	
風俗浅間嶽	五編 六編	種員校合 種久抄録 國貞書	

一休

うめちゃやかご

表題曲五國起

廿四孝精

大徳寺

一休 才二篇 上冊

狂画

假名反古一休草紙序

世尊不説して迦葉に説所謂捻華微笑の深意傳燈暉く四七の祖達磨大師の佛心宗抔と一休一代記の舒詞故ゐ素聞法問抄略佛語でやうけても其後文に問て咎困頗不学文盲乃腹裏本来無一物剣の遅筆に不立毛頭ハ不立文字の唱ふや的ん既ゐ表題小号せー反古ゐ法語ハひっすれど斯まで果敢なき假名策子の人々童達ゐ視廃られ氏の難を免れ張抜の達磨を造べき料とうりなば須禅家ゐ有縁の東西と言ん而已

嘉永壬子新正

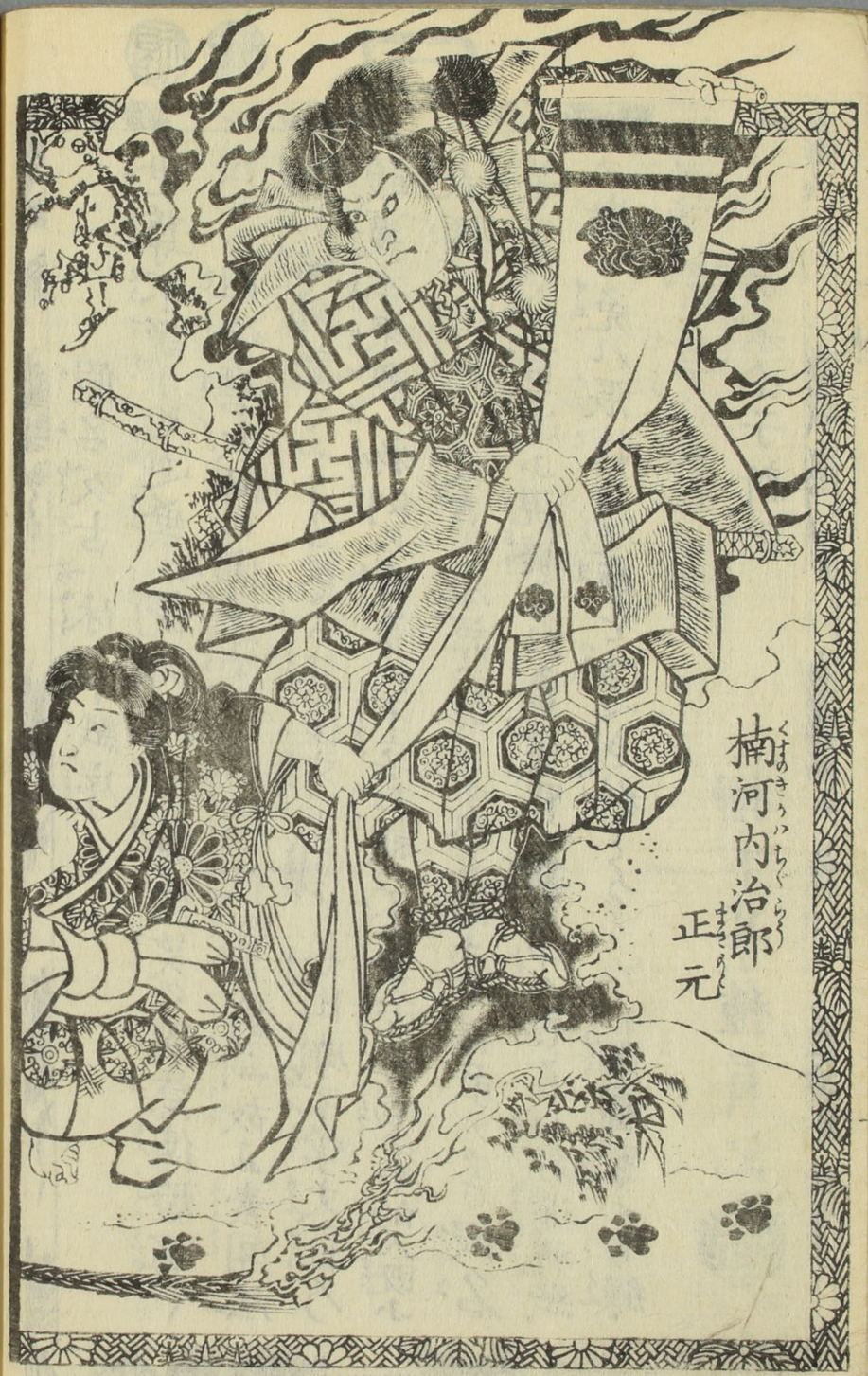
栟下亭種員記

楠家の長臣恩地左近
一淌の嫡孫般若丸後年
泉州乳岡ノ隠遁ー
一路居士といふ
是なり

俳諧銘肩集
万治二年刊行
岡本及黄撰

雪ふるや咲ね
梅もる犬そらつ
高野山含笑

凡脳の犬



楠河内治郎
正元

後小松帝の御落胤聰明丸
后紫野大徳寺の沙弥宗純是則
一休禅師の初名なり

妖怪婦

夢見草

慶安二年刊行
蔭山休安撰

是やその一字
不況のゆき伸

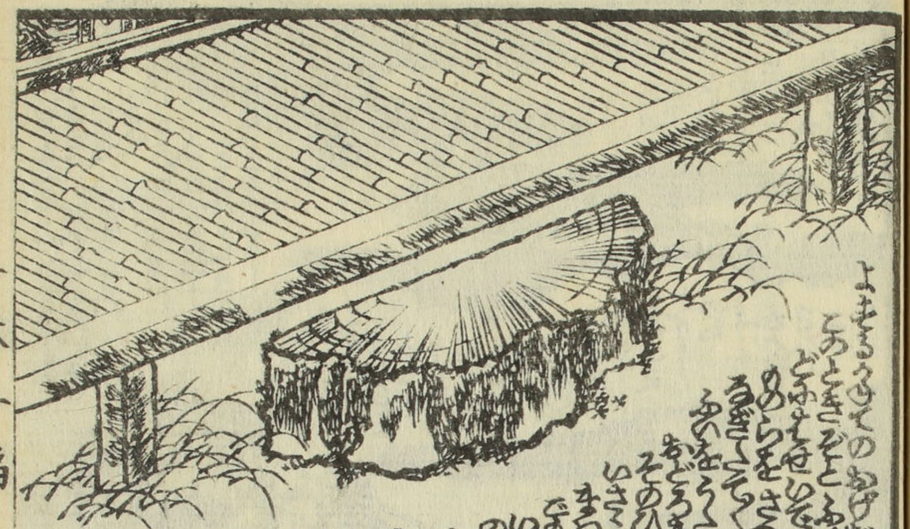
撰者 休安

和田正澄の女

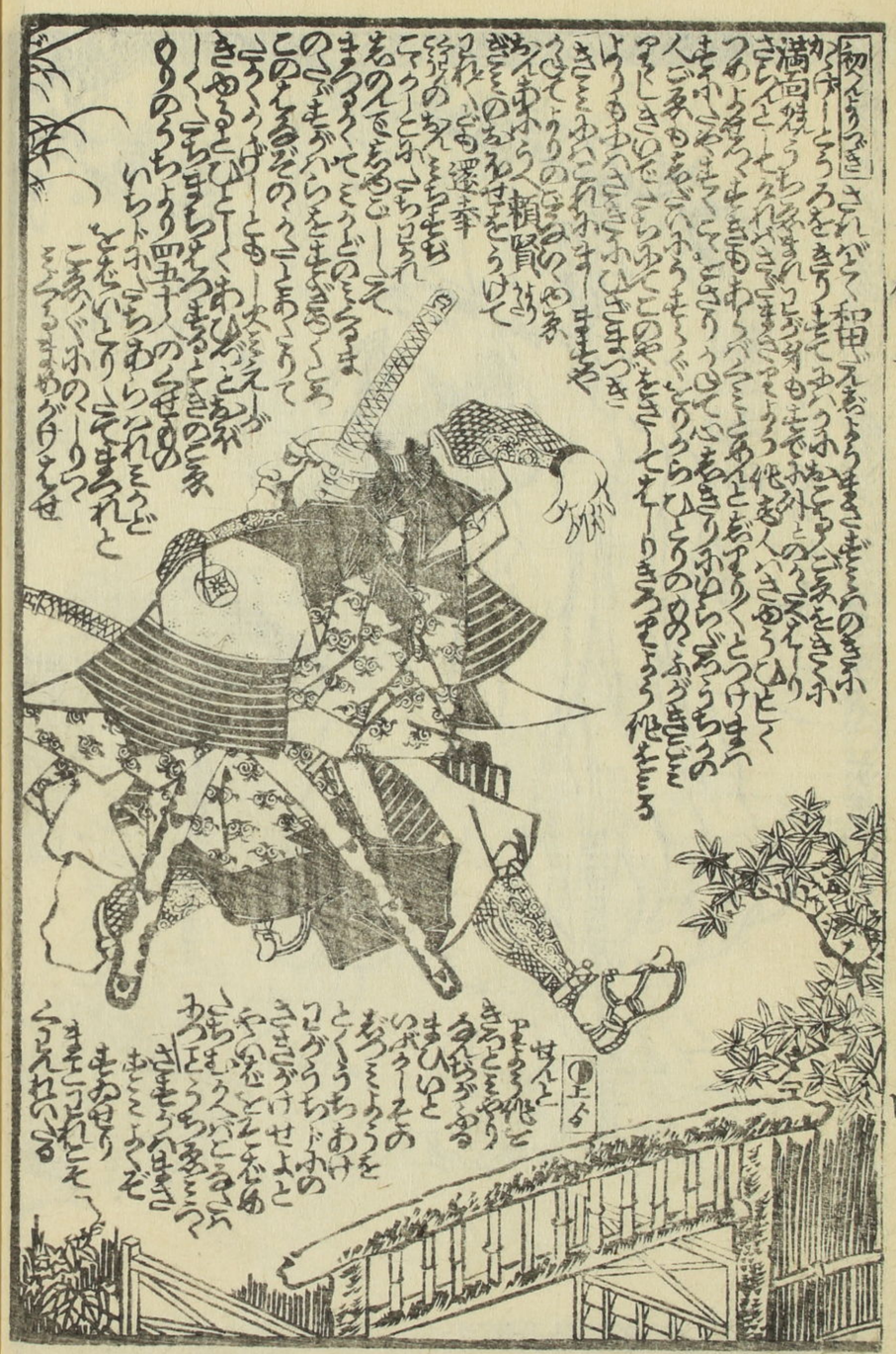
露草

后剃髪して
心昌尼と
法号す

一休の師
宗曇和尚



音川源次守頼賢行ふりこまきのか
をて集久法頼重れるうくさかめでりの
のふりけこのうるくさかめでりの
うちとりてえそこのまこっあよう
つあよろまもらとのろうを
へごうるをあひのあさちら
せふりろーきこえを
あげ「のうこよつま
まうてくいまうのむ
てもやかつげこきこの
ぬるうりとよろ
ようてぐんおようちうのうれ
こあけうちうのさこまふ
まさそこさらふんれれも
「いのふうこれをさしてちとひ
ちやうもれしなこの
そうつうまろ
まそそのまう
ここえぞいよ
うれもあげ
ありさまや
うちえぞ
のふせいの
そまうらう
こふてぐそ
うえとくろ
とこうのでこ



旨

重

藤浪

藤浪が母

藤浪が母

白拍子

藤浪

末期の娘

香栖へ遺言する

もとづな
音川
頼重

香栖

正
負
露

奇

種員作國輝画

淨書 心酔

つき ゐるらぜうるゑまわらせえとおら
りゐふまさこおをゐつてをろるそ「おら
をろうるる人ぐのてそむ
こうさえせえぜ心
おらぐうくまそ
ものをおりぐさき
ようのぐうの
とーふつき
日ふをひて
をとろくゐふを
くるふむひえい
いよくまさうねえりき
岩をもとろものふとえ
下ふびわ北帝邪の玉躰
ぎくおちうつきまわらせ
ゐえいをとぐくとおりひとを
南おいわちこのやうらこびき
ものびくふうくらうーふ
とようひのおくくうりーふ
そのるぐそさえみのわへ
ヲハんるそのつもと
きえてふとーぐろ
ちえてきとれらひー
わーぐよりこふをーと方も
うらふこぎるふざえわえるぐら
いうふせえ天るり命いるり
くやむぐくうむ へぐふびえるえむをる
ぎらもーわやまのふホーつきをセ

三の巻えぐ

傳國涙五色彩線　柳烟亭種文作　一雄斎國輝画　初編　二編

星月夜窓下白梅　翠松園種春作　一雄斎國輝画　初編　二編

渭濱秘譬　芥談浮世文庫　全一冊　柳昇亭種蔭　柳雨亭種安合作

古今いづれも門人の作種員校合の
さし来丑年初春うりいでーの号
ほりあ市一覧を希よん

柳煙亭種久作

一壽齋國貞畫

忠臣貞婦 いろは文庫

初編　附録一冊
二編　出板別に
三編　發売アリ

柳下亭種員校合
一陽齋豊國助筆
梅素亭玄魚補

仮名反古一休草紙	九編 十編 十一編	柳下亭種員作 一壽齋國貞画	
小女郎蜘蛛怨霊環	三編	曲亭馬琴作 一勇齋國芳画	
照天松操月鹿毛	五編 六編	春風亭柳枝作 一雄齋國輝画	
風俗浅間嶽	五編 六編	種員校合 種久抄録 國貞畫	

稚貞
似作
画

二編下

大徳寺

嘉永壬子

獻歲裝兒

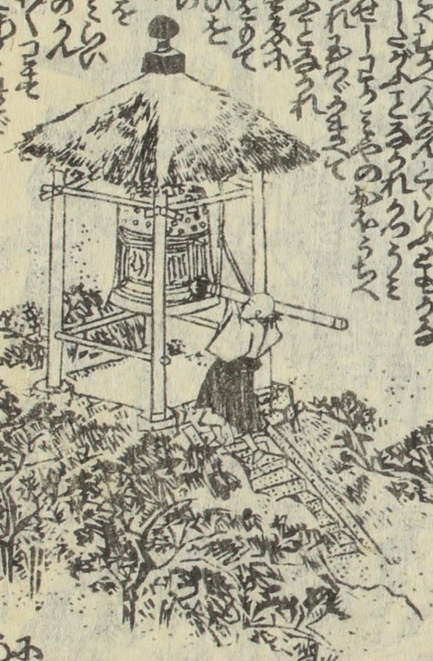
一草二休紙

假名反古集 下冊

柳下亭種員 著述

一雄齋國輝 圖畫

發客甘泉堂

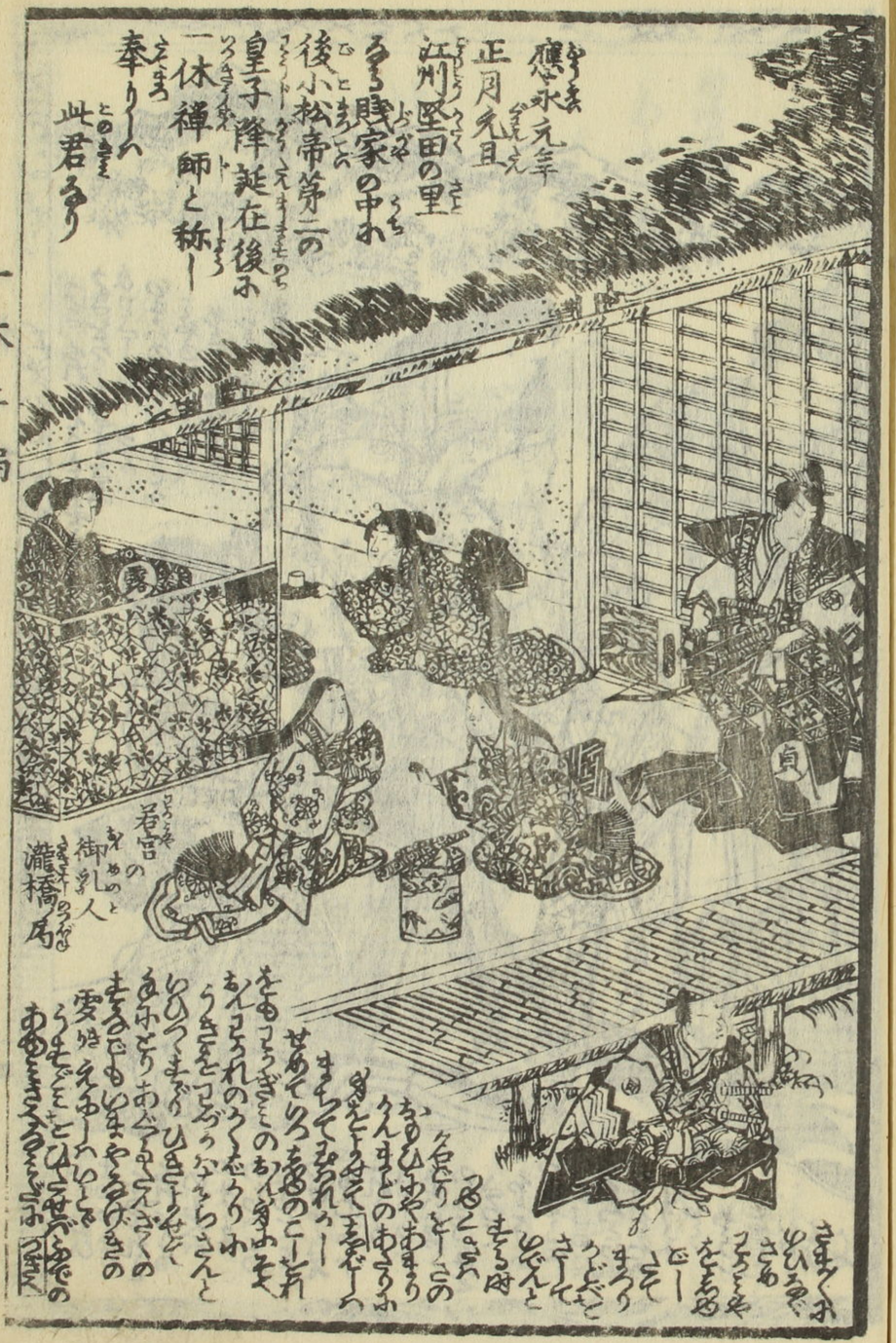


露
正

重
四

正
貞

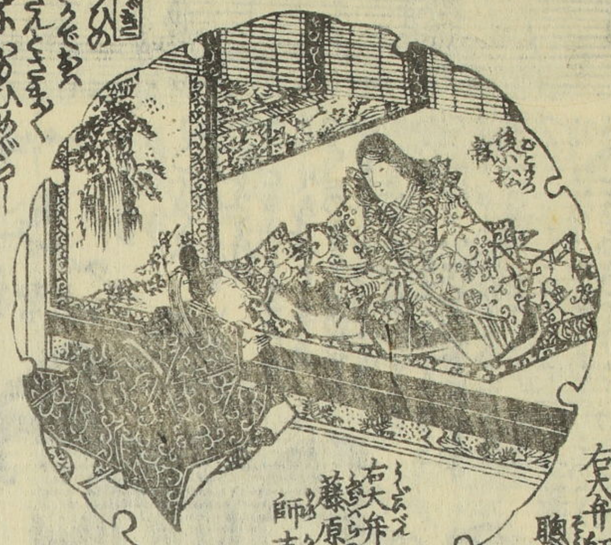
重
露
秀


應永元年
正月元旦
江州堅田の里
ゟ
時家の中ゟ
後小松帝第二の
皇子降誕在後ゟ
一休禅師と称し
奉りしハ
此君ゟり
若宮の
御乳人
瀧橋局
貞

瀧
貞

新續古本集
頼政
露

聰
明



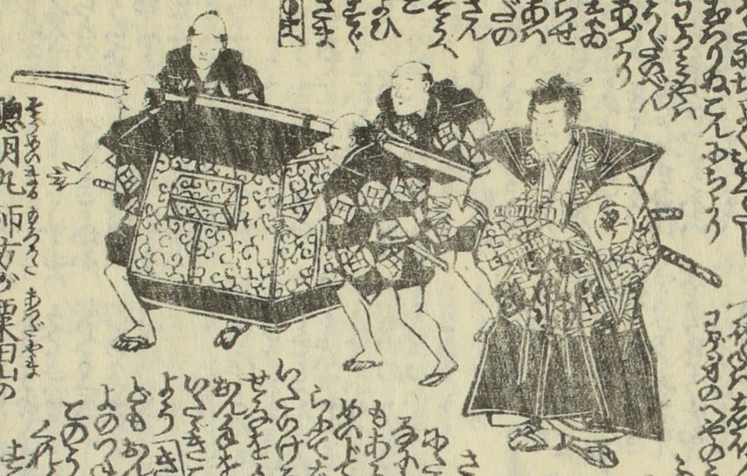
右大弁師方の侫智聰明君と洛外に追ふまわらう

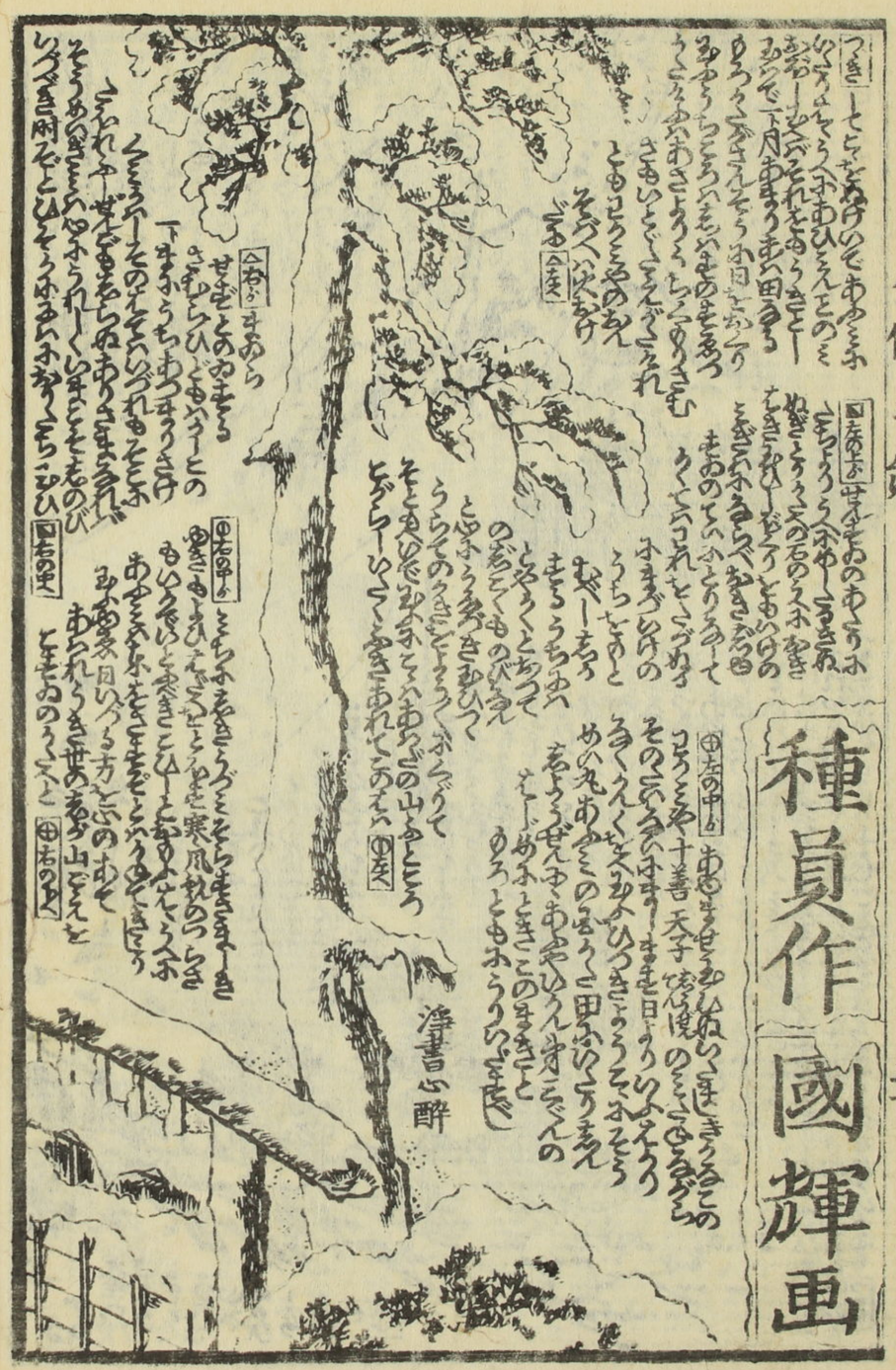
三上典膳

師方々の雑掌

三上典膳

師方典膳が命ぜし瀧橋局と退さる





安政四丁巳春發行
日錄記

女郎花五色石臺 八編 桥下多種員作
九編 一筑齋國盛画

新編金瓶梅 初編ゟ十編迄 曲亭馬琴作
大尾 一陽齋豊國画

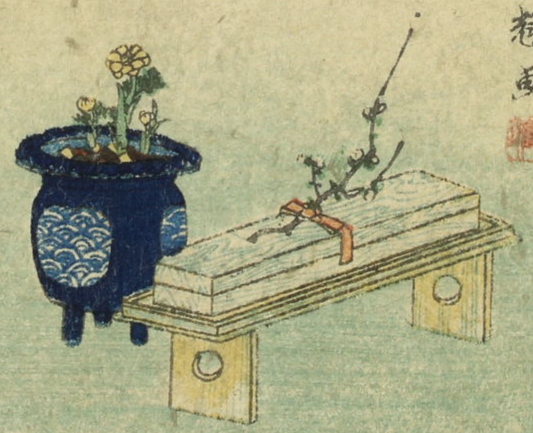
黄金水大盃 五編 六編 為永春水作
出板 歌川國貞画

一猛齋芳艮画
三十ろくせん
六六六歌撰詠色双六
本當の教つきこの地さのしきふ仕立られくの名あり
そのけしきありくれば初学の
ひろまきとふ五極よろき双六

芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛板
古今俳人百撰 中本一冊 荒木田久老著 そのめ蓼太ゟ
小倉百人一首姫文庫 極彩色 小本一冊

種員
國運
泉

俳名及古一休等著六篇



柳下亭種員作
一柱齋國輝画

甘泉堂
壽梓